

平成18年度 病害虫発生予察情報 臨時情報 第2号

平成18年8月16日
島 根 県

8月に入り果樹を加害するカメムシ類の発生が増加しています。今後ナシ、カキで被害の恐れがありますので臨時情報を発表します。現在のところクサギカメムシは7月6半旬から8月2半旬にかけて440頭（平成15年150.5頭）と平成15年に比べ多く誘殺されています。また、本年はヒノキ毬果の着果量も平成15年並みであるため、チャバネアオカメムシの毬果からの離脱も多くなり、果樹園への飛来が増加すると考えられます。現地ではカメムシ類の発生状況の把握につとめ、適切な防除対策を講じてください。

記

1. 病害虫名 果樹を加害するカメムシ類
2. 発生地域 カキおよびナシ栽培地帯
3. 発生時期 8月中旬～
4. 発生量 やや多い

5. 発表の根拠

- 1) 7月6半旬から8月2半旬にかけてクサギカメムシが440頭（平成15年150.5頭）と平成15年に比べ多く誘殺されている。
- 2) 被害が多かった2002年、2004年と同様に6月のチャバネアオカメムシのフェロモントラップでの誘殺数が337頭（2002年178頭、2004年1,055頭）と多く、越冬量が多かったと考えられる。
- 3) 巡回調査における被害果調査では被害果率は7月6半旬から8月2半旬にかけて0.4%（平成15年1.4%）から1.2%（平成15年1.4%）と増加傾向にある。
- 4) 本年のヒノキ毬果の発生は果粉の飛散量から推測すると平成15年並みと予測されるため、今後チャバネアオカメムシのヒノキ毬果からの離脱が盛んとなり、圃場への飛来が増加すると予測される。
- 5) 向こう1か月気象予報（8月11日・広島地方気象台発表）によると、気温は平成15年並か高く、降水量は平成15年並と予想され、今後も発生に好適な条件が継続すると考えられる。

6. 防除対策

- 1) 園内のカメムシ類の発生動向に注意し、発生を認めた園では速やかに薬剤散布を行う。
- 2) 薬剤については、ネオニコチノイド系剤や合成ピレスロイド剤を中心とし、ローテーション散布を行う。農薬安全使用基準ならびに農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。